【授業科目】公衆衛生学特論　　Advanced Public Health

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大島 茂、井上 孝	4年次 後期	選択	1	15	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	公衆衛生学、公衆衛生学実習を通じて学んだ専門知識をまとめ、保健統計学、感染症対策、生活習慣病対策、食品保健、地域保健、学校保健、母子保健など多岐にわたる衛生行政の実践について関連性を持たせて教授する。本講義では健康に影響を及ぼすリスク、基礎的な統計データの扱いなど他の専門科目との関連性も視野に入れ医療従事者にとって必要不可欠な疫学データに関しては最新トピックを交えて講義する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／適宜実施する課題については模範解答を解説する。 提出されたレポートについては解説し、コメントをつけて返却する。
実務経験に 関する 授業内容	臨床経験をもつ臨床検査技師の教員が、公衆衛生の中の予防医学、保健統計をはじめ学校保健、地域保健、母子保健、産業保健、感染症の疫学について、視覚教材や経験を交えながら指導する
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①公衆衛生学で学んだ疾病とその予防、栄養と健康に関する専門知識を説明できる。 ②最新の統計資料を読み、考察ができる。 ③予防医学の推進に必要な計画を立てられる。 ④講義で学んだ保健統計と疫学、生活習慣病などについて臨床現場や地域貢献の場で実際に応用できる。
時間外学習に 必要な 学習内容および 学習上の助言	教科書や講義に用いた配付資料等を復習し、要点をノートにまとめること。受講にあたり、60分程度の予習と90分程度の復習を行い積極的に取り組むこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第1回　予防医学 公衆衛生の概念、健康の定義、公衆衛生活動の特徴	井上
	第2回　健康と環境 疫学、スクリーニングテスト、敏感度と特異度	井上
	第3回　健康の指標 人口統計、人口動態調査、患者調査、有病率と罹患率	井上
	第4回　感染症とその予防 感染症法、予防接種法、検疫法、ワクチンの種類、	大島
	第5回　食品保健と環境保健 食中毒、食品衛生管理、国民健康・栄養調査、生活環境の保全、生活習慣病	大島
	第6回　医療保険と地域保健 社会保障制度、国民医療費、保健所の役割、市町村保健センターの役割	井上
	第7回　母子保健・学校保健 母子保健統計、母子保健サービス、学校における感染症予防とその対策	大島
	第8回　精神保健福祉・産業保健 精神福祉行政、職業病、労働衛生管理のしくみ	大島

評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験 100%　授業態度も加味する。		
教科書	プリントを配布します。	参考書等	厚生労働統計協会 『国民衛生の動向』
学生への メッセージ	臨床検査技師は保健所等の公衆衛生部門でも活躍をしていますので、公衆衛生学の知識も現場に向けて、身につけましょう。講義にあたり、教科書「わかりやすい公衆衛生学」を読むことで理解を深めてください。		